

官佛蘭西刑法  
法律書

福州第一師範學校  
(圖書館)

分類號	號
館藏號	門
編目部	部
刑法	外國刑法
卷	次
3	2
冊	冊
25475	號
8228	號

T1A1  
23  
91221



佛蘭西刑法二  
法律書

中博士箕作麟洋口譯

○第三篇 重罪輕罪及ヒ其刑

○第一卷 公然ノ事ニ對シタル重罪及ヒ

輕罪 第一章及ヒ第二章ハ千八百十年  
告第第三章ハ同月十六日決定同月廿五日布  
日決定廿六日布告

○第一章 國ノ安寧ヲ害スル重罪及ヒ  
輕罪

○第一款 國ノ外部ノ安寧ヲ害スル  
重罪及ヒ輕罪

第七十五條 佛蘭西ヘ對シ兵器ヲ弄スル佛蘭  
西人ハ死刑ニ處ス可シ

第七十六條 外國政府及ヒ其官吏等ヲシテ佛  
蘭西ヘ對シ拒敵ヲ為サシメ又ハ戰ヲ構セシ  
メ又ハ其拒敵戰鬪ヲ為スノ方畧ヲ得セシム  
ル為メ其外國政府及ヒ其官吏ト姦謀ヲ構ヘ  
或ハ交通ヲ為タル者等ハ死刑ニ處ス可シ  
縱令此姦謀及ヒ交通等ヨリ拒敵ノ事ヲ生ス

ルニ至ラサル場合ト雖モ亦此規則ニ循ノ可  
シ

第七十七條 國敵ノ佛蘭西領地及ヒ屬地ニ進  
入スル事ヲ容易ナラシメ又ハ國敵ニ佛蘭西  
ニ屬スル都府、城寨、陣營、港口、倉庫、武器製造所、  
船舶等ヲ附與シ又ハ國敵ニ兵卒、民人、金銀、食  
料、兵器、彈藥等ノ資助ヲ給與シ又ハ士官、兵卒、  
水夫及ヒ其他ノ人民等ノ皇帝及ヒ國家ニ對  
シタル忠誠ノ心ヲ蠱惑シ或ハ其他ノ方畧ヲ  
以テ佛蘭西海陸ノ所領又ハ佛蘭西ノ海陸軍

等ニ向ヒ敵兵ノ進撃ヲ助ク可キ為メ國敵ト  
共ニ姦謀ヲ構ヘ又ハ交通ヲ為タル者等ハ死  
刑ニ處ス可シ

第七十八條 敵國ノ臣民ト交通ノ事ニ於テ前  
條ニ記シタル重罪ノ一箇ヲ目的ト為スナ  
シト雖モ佛蘭西又ハ佛蘭西ノ與國ノ兵事及  
ヒ政事等ノ害トナル可キ報知ヲ敵國ニ與フ  
ル事ノ生スルニ至ル時ハ其交通ヲ為シタル  
者ヲ囚獄ノ刑ニ處ス可シ但シ此規則ト間諜  
ノ行ヲ以テ交通ヲ為シ敵ニ其報知ヲ與ヘタ

ル時更ニ重刑ニ處ス可キ規則ト相抵觸スル  
ヲナカル可シ

第七十九條 第七十六條及ヒ第七十七條ニ記  
シタル姦謀及ヒ交通等ハ佛蘭西ヘ對シテ行  
ヒシ時ト雖モ又ハ佛蘭西ノ敵ト兵ヲ構スル  
佛蘭西ノ與國ヘ對シテ行ヒシ時ト雖モ皆此  
二條ニ記シタル刑ヲ以テ犯者ヲ處ス可シ

第八十條 佛蘭西ノ長官、政府ノ官吏及ヒ其他  
職掌景況等ニ因リ商議、出兵等ノ密事ノ委任  
ヲ受ケ又ハ其事ニ參知スルヲ得タル者等

ノ若シ其機密ヲ外國又ハ敵國ノ官吏ヘ洩漏  
シタル時ハ第七十六條ニ記シタル刑ニ處セ  
ラル可シ

第八十一條 佛蘭西ノ長官、政府ノ官吏及ヒ政  
府ヨリ委任ヲ得タル者等ノ其職掌ニ因テ城  
寨、兵器製造所、港口等ノ圖面ノ任ヲ受ケ其圖  
面ノ一箇ヲ敵國又ハ敵國ノ官吏等ニ附與セ  
シ時ハ死刑ニ處セラル可シ  
若シ其圖面ヲ中立國又ハ與國ノ官吏等ニ附  
與シタル時ハ囚獄ノ刑ニ處セラル可シ

第八十二條 賄賂、偽計、強奪等ニ因リ其圖面ヲ  
得テ之ヲ敵國又ハ外國ノ官吏等ヘ附與シタ  
ル前條ニ記セシ官吏外ノ者ハ其官吏ト同一  
ノ刑ニ處セラル可シ但シ其圖面ヲ敵國ヘ附  
與セシ者ト外國ヘ附與セシ者トノ刑ハ前條  
ノ區別ニ同シ  
其圖面ヲ敵國又ハ外國等ヘ附與セシ者ノ若  
シ姦兇ノ所為ニ非スシテ之ヲ得タル時第八  
十一條ノ首項ニ記シタル場合ニ於テハ流刑  
ニ處セラル可シ

第八十一條ノ次項ニ記シタル場合ニ於テハ  
二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間  
禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第八十三條 敵國ノ諜人又ハ兵卒等ヲ匿シ置  
キ及ヒ匿シ置カシメシ者等ノ其事ノ發露ス  
ル時ハ死刑ニ處セラル可シ

第八十四條 外國ヘ對シ政府ヨリ允許セサル  
拒敵ノ所行ヲ為スニ因リ外國ヲシテ我國ニ  
對シ構兵ノ事ヲ公告スルニ至ラシムル者ハ  
追放ノ刑ニ處セラル可シ若シ其事ニ因テ現

ニ戰爭ニ至ル時ハ流刑ニ處セラル可シ

第八十五條 政府ヨリ允許セサル所行ヲ為ス  
ニ因リ外國ヲシテ佛蘭西人ヘ對シ其報復ヲ  
行フニ至ラシムル者ハ追放ノ刑ニ處セラル  
可シ

○第二款 國ノ内部ノ安寧ヲ害スル  
重罪

○第一節 皇帝及ヒ皇族等ヘ對シ  
タル暴行及ヒ陰謀

第八十六條

千八百五十三年第六月十  
日ノ法ニ於テ如左換フ 皇帝ノ

生命及ヒ身體等へ對シタル暴行ハ尊屬ノ親ヲ弑シタル刑ヲ以テ罰ス可シ

皇族ノ生命ニ對シタル暴行ハ死刑ヲ以テ罰ス可シ

皇族ノ身體へ對シタル暴行ハ城寨中へ謫スル流刑ヲ以テ罰ス可シ

皇帝ノ身體へ對シ公然ニ行ヒタル諸般ノ不敬ハ六月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且五「フランク」一「グ」ハ大凡我カ十二文ヨリ少カラス一萬「フランク」ヨリ目ニ當ル

多カラサル罰金ヲ以テ罰ス可シ

其犯人ハ其禁錮ノ期限ニ均シキ時間第四十二條ニ記シタル民權ノ全部又ハ一部ヲ行フ可カラサルノ禁ヲ受ク可シ但シ其期限ハ刑ニ處セラレシ日ヨリシテ算ス可シ

皇族へ對シ公然ニ行ヒタル諸般ノ不敬ハ一月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且百「フランク」ヨリ少カラス五千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ヲ以テ罰ス可シ

第八十七條

千八百五十三年第六月十日ノ法ニ於テ如左換フ 政府ヲ

覆ヘシ又ハ皇嗣ノ順序ヲ紊リ又ハ臣民ヲシテ帝權ヲ拒ミ兵器ヲ弄サシメント為ス等ノ事ヲ目的ト為タル暴行ハ城寨中ニ謫スルノ流刑ヲ以テ罰ス可シ

第八十八條

其事ヲ既ニ行ヒ又ハ將ニ行ントスルノミ等ヲ以テ暴行ノ罪ナリトス

第八十九條

第八十六條及ヒ第八十七條ニ記シタル重罪ヲ目的ト為タル陰謀ヲ醸シテ之ヲ行ハントスル預備ヲナスノ所為ヲ既ニ行

ヒ又ハ開手シタル等ノ時ハ流刑ヲ以テ罰ス可シ

若シ之ヲ行ハントスル預備ヲ為スノ所為ヲ既ニ行ヒ又ハ開手シタル等ノ事ナキ時ハ囚獄ノ刑ヲ以テ罰ス可シ

二人以上ニ於テ其事ヲ行ハント商議ノ既定シタル時ハ陰謀ノ罪ナリトス

第八十六條及ヒ第八十七條ニ記シタル重罪ノ犯ヲ終成ス可キ陰謀ヲ醸ス可キ發言ヲナス者アリト雖ヒ協議セサル時ハ其發言ノ者



ヲ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時  
間禁錮ノ刑ニ處シ且其犯人ハ第四十二條ニ  
記シタル權ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受  
ク可シ

第九十條 第八十六條ニ記シタル重罪ノ犯ヲ  
行ハント一人ニ於テ決定ヲ為シ其行ハント  
スルノ所為他人ノ助ナク自ラ之ヲ為シ及ヒ  
為サントシタル時等ハ囚獄ノ刑ニ處ス可シ

○第二節 内亂又ハ法ニ背キテ兵  
ヲ動ス事及ヒ亂妨掠奪等ヲ公

行スル事等ニ因リ國ヲ動搖セ  
シメントスル重罪

第九十一條 臣民ヲシテ互ニ兵器ヲ弄セシメ  
及ヒ兵器ヲ弄セシメントシテ内亂ヲ起サン  
トナシ又ハ一箇ノ「コムニ」及ヒ數箇ノ「コ  
ムニ」等ニ於テ亂妨、亂殺、掠奪等ヲ為ス等  
ノ事ヲ目的ト為シタル暴行ハ死刑ヲ以テ罰  
ス可シ

此重罪中ノ一ヲ目的ト為タル陰謀及ヒ其陰  
謀ヲ醸サントスル發言等ヲ為シタル者ハ第

八十九條ニ記シタル刑ヲ以テ罰ス可シ但シ其陰謀ノ罪ノ刑ト陰謀ヲ醸ス可キヲ發言シタル罪ノ刑トハ第八十九條ニ記シタル區別ニ循フ可シ

第九十二條 正當ノ威權アル者ノ命及ヒ其允許等ナクシテ兵器ヲ弄シタル羣衆ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又ハ兵卒ヲ雇ヒ及ヒ雇ハシメ又ハ兵卒ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又ハ兵卒ニ兵器及ヒ彈藥等ヲ給與シタル等ノ事ヲ為ス者ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十三條 正當ノ威權ナク又ハ適當ノ道理ナクシテ一軍一隊一大船隊一小船隊兵船城寨陣營港口都府等ノ指揮ヲ執行ヒシ者ハ死刑ニ處セラル可シ

政府ノ命ニ背キ兵事ニ管係シタル指揮ヲ持スル者ハ死刑ニ處セラル可シ

軍隊ヲ解散シ又ハ離分ス可キノ命ヲ受シ後猶其軍隊ヲ屯聚シ置キタル指揮官ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十四條 兵權ヲ握リシ者ノ法律ニ於テ定

メタル兵卒召募ノ方ヲ妨ケンカ為メ己ノ指揮スル兵ニ其求需及ヒ命令等ヲ為シ又ハ其求需及ヒ命令等ヲ為サシメシ者ハ流刑ニ處セラル可シ

若シ其求需命令等ニ於テ其事ヲ現ニ行ヒシ時ハ其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

第九十五條 地雷火ヲ破裂セシメ政府ニ屬スル建造物、倉庫、兵器製造所、船舶及ヒ其他ノ財産等ヲ焚毀シ又ハ毀損セシ者ハ死刑ニ處セララル可シ

第九十六條 政府ニ屬スル領地、財産、金額、城寨、都府、陣營、倉庫、兵器製造所、港口、船舶等ヲ強奪セント為シ及ヒ公然ノ財産又ハ臣民一般ノ財産等ヲ掠奪シ或ハ分配セント為シ又ハ此重罪ヲ行フ者ヲ扞制スル政府ノ兵力ヲ襲撃シ或ハ抗拒ス可キ為メ兵器ヲ弄シタル羣衆ノ首トナリ又ハ其羣衆中ノ職務ヲ行ヒ或ハ指揮役トナリタル者等ハ死刑ニ處セララル可シ

如此羣衆ヲ募聚スルノ指揮ヲ為シ又ハ其羣

衆ヲ扇動シ及ヒ其規律ヲ立テ又ハ故ニ其羣衆ニ兵器、彈藥、其他兇行ヲ為ス可キ器具等ヲ給與シ及ヒ食料ヲ餉シ又ハ其他ノ方略ヲ以テ其羣衆ノ指揮ヲ為ス者ト交通シタル者等ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十七條 羣衆ヲ為タル者ノ第八十六條第八十七條第九十一條等ニ記シタル重罪犯ノ一箇及ヒ數箇ヲ行ヒ又ハ行ハント試ミ為タル時其群衆中ノ政府ノ命ニ抗シ集會セシ場所ニ於テ逮捕ヲ受シ者ハ其等級ノ區別ヲ論

セス死刑ニ處セラル可シ

其集會ノ場所ニ於テ逮捕ヲ受シニ非スト雖其政府ノ命ニ抗シテ指揮ヲ為シ或ハ其羣衆ノ中ニ於テ指揮役及ヒ或ル職務ヲ行ヒシ者等ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十八條 政府ノ命ニ抗シテ會集ヲ為ト雖其第八十六條第八十七條第九十一條等ニ記シタル重罪犯ノ一箇及ヒ數箇ヲ以テ目的ト為シ又ハ終成シタルニ非サル時ハ前條ニ記シタル羣衆中ノ者ノ其集會ノ場所ニ於テ逮

捕ヲ受ルト雖其指揮及ヒ或ル職務等ヲ行ハサル時ハ流刑ニ處セラル可シ

第九十九條 前數條ニ記シタル羣衆ノ目的及ヒ情體等ヲ知り威迫ニ因ラスシテ其羣衆ニ匿屋及ヒ隱匿ノ地又ハ集會所等ヲ貸與ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第一百條 其羣衆中ニ於テ指揮役及ヒ或ル職務等ヲ行フナク文武官吏ノ叱責ニ因リ直ニ其黨ヲ離脱スル者又ハ文武官吏ノ叱責ノ後ト雖其政府ノ命ニ抗シテ集會ヲ為タル場

所外ニ於テ抗拒ヲ為スナク且兵器ヲ弄スルヲナクシテ逮捕ヲ受シ者等ハ政府ノ命ニ抗シタル所行ノ為メ刑ヲ受クルヲナカル可シ

但シ此場合ニ於テ犯人ハ其一己ニ於テ行フタル格段ノ重罪ニツキ罰ヲ受クルノミト雖其五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第一百一條 兵器トハ斫、搦、毆等ヲ為ス諸器械ヲ云フ

挿懷ノ刀子、剪刀及ヒ尋常ノ杖等ハ人ヲ殺シ  
又ハ毆傷ヲナス可キ為メ用ヒタル時ノ外之  
ヲ兵器ト云フ可カラス

此款ノ前二節ニ適當シタル規則

第百二條 千八百十九年第五月十七日廢ス

○第三款 國ノ内部又外部等ノ安寧  
ヲ害スル重罪ヲ明告スル事及ヒ  
明告セサル事

第百三條 廢ス

第百四條 同上

第百五條 同上

第百六條 同上

第百七條 同上

第百八條 國ノ内部及ヒ外部ノ安寧ヲ害ス可

キ陰謀及ヒ重罪ノ犯等ヲ為シタル者ノ其陰  
謀及ヒ重罪ノ犯等ヲ為シ又ハ為ントセシ前  
且訴訟ニ及フ可キ前等ニ於テ政府又ハ政事  
ニ參スル官吏及ヒ裁判ノ取締役等ニ其陰謀  
及ヒ重罪又ハ其首從等ヲ明告シタル者又ハ  
既ニ訴訟ニ及フノ時ト雖モ其首從ヲ捕獲ス

ル事ヲ助ケシ者等ハ其陰謀及ヒ重罪ノ犯等  
ヲ為シタル者ノ刑ヲ免ル可シ  
然レ其其事ヲ明告シ又ハ捕獲ノ事ヲ助ケシ  
犯人ハ其一生中又ハ或ル期限中政府ノ監察  
ヲ受ク可キヲ言渡サル可シ

○第二章 建國ノ法ヲ害スル重罪及ヒ  
輕罪

○第一款 民權ヲ行フニ管係シタル  
重罪及ヒ輕罪

第百九條 噪聚、暴行、脅迫等ヲ為シ一人又ハ數

人ノ民權ヲ行フヲ妨ケタル時ハ其犯者ノ各  
人ニ於テ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラ  
サル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ且五年ヨリ少カラ  
ス十年ヨリ多カラサル時間議負ヲ選舉シ及  
ヒ議負ニ選舉ヲ得ルノ權ヲ行フノ禁ヲ受ク  
可シ

第百十條 若シ此重罪ノ犯ヲ全國中又ハ一州  
數州又ハ一郡數郡等ニ於テ行ハント協議シ  
タル計謀ヲ以テ為タル時ハ追放ノ刑ニ處ス  
可シ

第百十一條 議員請射ノ時衆人ノ請射ノ簽數ヲ計算スル任ヲ受シ者ニ於テ其請射ノ簽ヲ偽造シ又ハ請射ノ簽中ヲ増減シ又ハ文字ヲ識サル選舉人ノ請射ノ簽ニ其指示サ、ル姓名ヲ填寫シタル時ハ民權剥奪ノ刑ニ處セラ  
ル可シ

第百十二條 前條ニ記スル所行ヲ為タル者ノ若シ其簽數ヲ計算スルノ任ヲ受シ者ニ非サル時ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ且五年ヨリ少カラス

十年ヨリ多カラサル時間議員ヲ選舉シ及ヒ議員ニ選舉ヲ得ルノ權ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

第百十三條 議員選舉ノ時賄賂ヲ用ヒテ請射ヲ得又ハ賄賂ヲ得テ請射ヲ為タル者等ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間民權ヲ行フノ禁ヲ受ケ且公務ヲ行フ可ラサルノ禁ヲ受ク可シ  
且賄賂ヲ用ヒテ請射ヲ得又ハ賄賂ヲ得テ請射ヲ為タル者等ハ各其授受ノ賄賂ニ二倍シ



タル罰金ヲ償フ可シ

○第二款 人民自主ノ權ヲ害スル暴行

第百十四條 長官及ヒ官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケシ者等ニ於テ各人ノ自主ニ對シ又ハ一人及ヒ數人ノ民權ニ對シ又ハ建國ノ法ニ對シテ枉撓ノ所為又ハ危害トナルベキ所為等ヲ命シ及ヒ行ヒシ時ハ民權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

然レ命ヲ奉ス可キ長官ノ管領スル條件ニツ

キ其長官ノ命ニ因リ罪ヲ犯シタルノ確證アル時ハ其犯者ノ刑ヲ赦宥シテ命ヲ與ヘタル長官ノミヲ其刑ニ處ス可シ

第百十五條 前條ニ記載シタル所為ノ一箇又ハ數箇ヲ命シ及ヒ行フタル執政ノ佛蘭西共和政事立國第十二年プロレアル月第二十八日ノ議院決定書ノ第六十三條及ヒ第六十七條ニ定メタル儆戒ノ後猶其決定書中ニ記スル所ノ定期中其所為ヲ改マルヲ肯セス及ヒ怠リシ時ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

第百十六條 建國ノ法ニ背反シタル所為ヲ命  
シ又ハ許シタルノ罪ヲ犯セシト云フ装證ヲ  
受シ執政ニ於テ若シ其書上ノ調印ノ他人偽  
計ニ出シト言フ時ハ其背反ノ所行ヲ改正セ  
シ時ニ於テ其執政ヨリ偽計ヲ為タル者ヘ對  
シ必ス訴訟ヲ陳述ス可シ然ラサレハ己ニ於  
テ其訴訟ヲ受ク可シ

第百十七條 第百十四條ニ記シタル暴行ニツ  
キ言渡ス可キ追償ハ刑法及ヒ民法等ノ方法  
ニ循ヒ之ヲ訟告シ其人ノ位階ト其時ノ景況

及ヒ損害トニ准シテ規則ヲ定ム可シ但シ其  
償額ハ何ノ場合ニ於テモ又ハ其損害ヲ受シ  
者何ノ位階ノ人ニ於テモ其各人ノ枉ニ禁錮  
ヲ受シ日毎ニ二十五フランクヨリ少キナ  
カル可シ

第百十八條 執政及ヒ其他ノ長官等ノ姓名ヲ  
偽署シテ國法ニ背反シタル所行ヲ為セシ時  
ハ其偽署ヲ為シタル者及ヒ故ニ其偽署シタ  
ル書ヲ用ヒタル者等ニ於テ有期ノ至重ノ徒  
刑ニ處セラル可シ

第百十九條 政令及ヒ裁判等ニ管スル取締向  
ノ任ヲ受シ官吏ノ犯人ヲ禁錮スル厩舎又ハ  
其他ノ場所等ニ於テ法律ニ背キ枉一人ヲ禁  
錮セシトテ證ス可キ為ノ呈訴シタル者アル  
時若シ其訟ヲ聽クトテ肯セス又ハ其事ニ怠  
リ及ヒ其呈訴セシトテ長官ヘ告白シタルノ  
證ナキ者等ニ於テハ民權剝奪ノ刑ニ處シ且  
第百十七條ニ記シタル所ノ償額ヲ出サシム  
可シ

第百二十條 獄舎、徒刑場及ヒ其他人民ヲ禁錮

ス可キ厩舎等ノ看守人、門監等ニ於テ禁錮ノ  
命及ヒ裁判ノ言渡又ハ政府ノ假ノ命等ナク  
シテ犯人ヲ其中ニ收受セシ者又ハ「プロキユリ  
ウル、アムペリアル」裁判所ニ於テ訴及ヒ裁判  
ヲ取扱フ官吏役等ノ禁ヲ用ヒスレテ犯人ヲ剋留セシ者又  
ハ犯人ヲ取締ノ官吏及ヒ其官吏ノ命ヲ受ケ  
シ者等ニ面セシムルトテ許諾セサル者又ハ  
取締ノ官吏ヘ厩舎中ニアル犯久ノ姓名簿ヲ  
示視スル事ヲ肯セサル者等ハ人ヲ枉ニ禁錮  
セシ罪アル者ト為シ六月ヨリ少カラス二年

ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且十六  
フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多  
カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百一十一條 裁判取締ノ官吏又ハプロキュ  
ウル、ゼ子ラル、プロキュリウル、アム、プロキュリウ  
ル、アムペリアル、及ヒ其代人又ハ裁判役等ノ  
國法ニ於テ定メタル允許ナクシテ執政又ハ  
上院下院及ヒ議政等ノ官負ヘ對シ訴訟又ハ  
其罪ノ上告等ヲ為サントスル裁判書、命令書  
等ヲ記シ及ヒ給與シ又ハ其書ニ調印ヲ為シ

タル者又ハ目下現行ノ輕罪犯、衆論鼎沸ノ場  
合等ノ外ニ於テ國法ニ於テ定メタル允許ナ  
クシテ執政又ハ上院下院及ヒ議政等ノ官負  
ノ一人又ハ數人ヲ逮捕ス可キ命令書ヲ給與  
シ及ヒ其書ニ調印ヲ為タル者等ハ其職務ヲ  
冒瀆スルノ罪アリト為シ民權剥奪ノ刑ニ處  
セラル可シ

第二百二十二條 プロキュリウル、ゼ子ラル、又ハ  
ロキュリウル、アムペリアル、及ヒ其代人又ハ裁  
判役及ヒ其他ノ官吏等ノ政府又ハ官署ニ於

テ定メタル場所外ニ於テ人ヲ禁錮シ及ヒ禁錮セシメタル者又ハ人ニ對シ預メ法律ニ循ヒ訴訟ヲ為ス<sup>ナク</sup>直チニ其人ヲ其上等裁判所ヘ呼出セシ者等ハ亦民權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

○第三款 官吏ノ通謀

第二百二十三條 官署ノ權ヲ以テ委任ヲ受タル數人又ハ數箇ノ夥中等ニ於テ會議ヲ為シ行フタル法ニ背キ<sup>ナカ</sup>シ通謀及ヒ其名代人又ハ文書通信等ニ因リ行フタル法ニ背キ<sup>シ</sup>通謀等

ハ其各犯人ニ於テ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ且十年ヨリ多カラサル時間民權及ヒ公務等ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

第二百二十四條 若シ前條ニ記シタル方略中ノ一箇ニ因リ國法ヲ施行スル事及ヒ政府ノ命令等ニ背キ<sup>シ</sup>計議ヲ行ハント為タル者ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ  
若シ文官ト兵隊及ヒ其指揮官ト通謀ヲ為タル時ハ其首謀ノ者ニ於テ流刑ニ處セラレ其

他ノ犯人ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二十五條 若シ其通謀ニ因テ國ノ内部ノ  
安寧ヲ害セント為ストヲ目的ト為シ又ハ其  
事ヲ終成シタル時ハ其犯人ヲ死刑ニ處ス可  
シ

第二百二十六條 官吏ノ故ラニ退職シテ裁判ノ  
處置、公務ノ完成等ヲ妨ケ又ハ其事ヲ阻止セ  
ント欲シ及ヒ終成シタル者ハ其職務ヲ冒瀆  
シタルノ罪アリト為シ民權剝奪ノ刑ニ處セ  
ラル可シ

○第四款 政權及ヒ裁判ノ權等ヲ侵  
ス事

第二百二十七條

第一 裁判役、プロキリウルゼ子ラル、  
ロキリウル、アムペリアル、及ヒ其代人  
又ハ取締ノ官吏等ノ立法ノ規律ヲ創  
シ又ハ法律ヲ施行スル等ノ事ヲ妨ケ  
及ヒ其事ヲ阻止シ又ハ其法律ヲ公告  
シ及ヒ之ヲ行フ等ノ可否ヲ論シテ立  
法權ヲ行フ事ニ干涉シタル者

第二 裁判役、プロキュリウル、ゼ子ラル、

ロキュリウル、アムペリアル、及ヒ其代人  
又ハ裁判取締ノ官吏等ノ政事ニ管ス  
ル規律ヲ立テ又ハ政權ノ任ヲ受シ者  
ノ下シタル命ヲ行フ事ヲ禁スル等ノ  
事ヲ爲シ政權ニ干涉シテ自己ノ權外  
ニ過越シタル所行ヲ爲シ又ハ政權ニ  
管スル者ヲ其職務上ノ事ニツキ裁判  
所ヘ呼出ス可キ事ヲ許シ及ヒ其命ヲ  
爲シタル處置ノ正シカラサルニ因リ

之ヲ勸沮シ又ハ其威權ノ互ニ相抵觸  
スルヲ告諭スト雖凡猶其裁判命令  
等ヲ行ハント固執スル者

此等ノ者ハ其職ヲ冒瀆シタルノ罪アリト爲  
シ民權剥奪ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二十八條 裁判役ニ於テ其裁判所ヘ呈訴  
セシ事ノ政權ニ管ス可キ條件タル公然ノ告  
知ヲ得ト雖凡上班ノ吏ノ決定ヲ待スシテ其  
裁判ヲ爲タル者ハ其各人ニ於テ十六フラン  
クヨリ少カラス百五十フランクヨリ多カラ

サル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
此裁判ヲ求需シ及ヒ此裁判ヲ得ン事ヲ陳述  
シタルミニステール、ピュブリックハ同刑ニ處セ  
ラル可シ

第百二十九條 裁判役ニ於テ原告人及ヒ被告  
人又ハ政權ニ管スル官吏等ヨリ裁判ヲ休止  
ス可キ正當ノ求需ヲ得タル後ニ政府ノ允許  
ナクシテ其職務ヲ行フニツキ重罪又ハ輕罪  
ヲ犯セシノ呈訴ヲ得タル政府ノ官吏及ヒ  
政府ノ委任ヲ受シ者等ヲ罰ス可キ命又ハ裁

判所へ呼出スノ命等ヲ下シタル者ハ百フラ  
ンクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラ  
サル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
此命ヲ下ス事ヲ求メタルミニステール、ピュ  
ブリック及ヒ取締ノ官吏等ハ同刑ニ處セラル可  
シ

第百三十條 第百二十七條ノ第一ニ記シタル  
如ク立法權ヲ行フニ干涉シ又ハ裁判所へ  
命令及ヒ禁令等ヲ告知セシム可キ一般ノ決  
定ヲ為ス事ニ干涉シタルプレヘー  
一州ヲ支配スル官



吏「スウブレヘー」一郡ヲ支配「メイル」一村ヲ支配  
及ヒ其他ノ土地ヲ支配スル官吏等ハ民權剥  
奪ノ刑ニ處セラル可シ

第三百一十一條 前條ニ記スル所ノ官吏等ノ裁  
判所統轄ノ隱密ナル權利ニ參知スル事ニ干  
渉シテ裁判ノ職務ヲ行ント為シ且原告人及  
ヒ被告人ノ雙方又ハ一方等ヨリ裁判ヲ休止  
セント求ムルト雖モ上班ノ吏ノ命ヲ待タス  
レテ其裁判ヲ行ヒシ時ハ十六「フランク」ヨリ  
少ナカラス百五十「フランク」ヨリ多カラサル

罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○第三章 國ノ靜謐ニ對シタル重罪及

ヒ輕罪

○第一款 贋造偽造

○第一節 贋金

第三百十二條

千八百六十三年第五  
月十三日如左條ヲ 佛蘭西國

ニ於テ當然通用ノ金銀貨幣ヲ贋造及ヒ變造  
セシ者又ハ其贋造及ヒ變造ノ貨幣ヲ發行シ  
又ハ通用スル事ニ加リ及ヒ其貨幣ヲ佛蘭西  
國領地内ヘ携ヘ來ル事ニ加リタル者等ハ無

期ノ徒刑ニ處セラル可シ

佛蘭西國ニ於テ當然通用ノ銅貨幣ヲ贋造及  
ヒ變造セシ者又ハ其贋造及ヒ變造ノ貨幣ヲ  
發行シ又ハ通用スル事ニ加リ及ヒ其銅貨幣  
ヲ佛蘭西國領地内ヘ携ヘ來ル事ニ加リタル  
者等ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百三十三條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ外國ノ貨

幣ヲ贋造及ヒ變造セシ者又ハ贋造及ヒ變造  
ノ外國貨幣ヲ佛蘭西國內ニ於テ發行及ヒ通  
用又ハ携來ル等ノ事ニ加リタル者等ハ有期

ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百三十四條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ佛蘭西國

ニ於テ當然通用ノ貨幣及ヒ外國ノ貨幣等ニ  
綠色ヲ加ヘ其質ヲ偽ラント為ス者又ハ其綠  
色ヲ加ヘタル貨幣ヲ佛蘭西國內ニ於テ發行  
シ又ハ携ヘ來リシ者等ハ六月ヨリ少カラス  
三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
ル可シ

此綠色ヲ加ヘタル貨幣ヲ發行シ又ハ携來ル  
等ノ事ニ加リタル者ハ同刑ニ處セラル可シ

第三百三十五條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ

前三條ニ

記セシ所ノ罪犯ニ加リタル者トハ贋造、變造  
及ヒ綠色等ヲ為タル貨幣ヲ以テ好質ノ貨幣  
ト思ヒ之ヲ交收シテ使用セシ者ヲ指言フ可  
ラス

然ル其貨幣ノ惡質ナル事ヲ證シ又ハ證セシ  
メシ後ニ之ヲ使用シタル者ハ其使用シタル  
額ノ三倍ヨリ少カラス六倍ヨリ多カラサル  
罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ其罰金ハ何レノ  
時ト雖ル十六フランクヨリ少キナカル可

第三百三十六條

千八百三十二年第  
四月二十八日廢ス

第三百三十七條

千八百三十二年第  
四月二十六日廢ス

第三百三十八條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ

第三百三十

二條ニ記シタル所ノ重罪ヲ犯セシ者ノ其重  
罪ノ犯ヲ終成スル前及ヒ訴訟ニ及フ可キ前  
等ニ於テ其重罪犯ノ事ヲ告知シ其首謀者ヲ  
相當ノ官吏ニ明告シ又ハ訴訟ニ及フノ後ト  
雖ル他ノ犯人ヲ逮捕スルノ事ヲ助ケシ時ハ  
其刑ヲ赦宥ス可シ

然ル終身間又ハ定期ノ時間政府ノ別段ナル  
監察ヲ受ク可シ

○第二節

國璽、交引舗ノ紙券、國債

ノ證票、金銀ノ鑿記、記號、商牌等

ヲ贋造スル事

第百三十九條

國璽ヲ贋造シ及ヒ贋造ノ國璽

ヲ用ヒタル者

會計局ヨリ發行セシ記號アル國債ノ證票及  
ヒ法律ヲ以テ允許セシ交引舗ノ紙券等ヲ贋  
造シタル者又ハ其贋造ノ證票及ヒ交引等ヲ

用ヒタル者又ハ其贋造ノ證票及ヒ交引舗ノ  
紙券等ヲ佛蘭西領地内ヘ携ヘ來リシ者

此等ノ犯人ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百四十條

政府ノ記號又ハ伐出サント為ス

樹木ニ印シタル政府ノ鑿記又ハ金銀ノ質ヲ

極ル為メ印シタル鑿記等ヲ贋造セシ者及ヒ

贋造ノ印紙、證票、記號、鑿記等ヲ用ヒタル者等

ハ有期ノ至重ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百四十一條

第百四十條ニ記セシ所ノ用法

アル真正ノ記號及ヒ鑿記等ヲ不正ニ所得ト

為シ政府ノ權利ヲ害スル為メ之ヲ用ヒタル者ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セフル可シ

第四百十二條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ  
政府ノ名

號ヲ以テ諸件ノ物品、商品等ニ用フ可キ憑印ヲ贋造シ及ヒ其贋造ノ憑印ヲ用ヒタル者又ハ官吏ノ印章、記號等ヲ贋造シ及ヒ其贋造ノ印章、記號等ヲ用ヒタル者又ハ飛脚印ヲ贋造シ及ヒ其贋造シタル飛脚印ヲ故ラニ用ヒタル者等ハ二年ヨリ少ナラス五年ヨリ多カラ

サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

且此等ノ犯人ハ其刑ヲ受シ日ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

又此等ノ犯人ハ裁判所ノ命ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ  
又此罪ヲ犯サント謀リシ者モ亦同一ノ刑ニ處セラル可シ

第四百十三條

千八百六十三年第五月十三日如左換フ

第四百十

二條ニ記セシ所用ニ充ツ可キ真正ノ印章、記號等ヲ不正ニ所有ト為シ政府又ハ官署等ノ權利ノ害トナル可キ方法ヲ以テ之ヲ用ヒ又ハ用ヒント為シタル者等ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

且此犯人ハ其刑ニ處セラレシ日ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ク

可シ

又其犯人ハ裁判所ノ命ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第四百十四條

第三百十八條ノ規則ハ第三百三

十九條ニ記シタル重罪ニ適當シテ用フ可シ

○第三節

公然ノ書類及ヒ確的ノ

書類又ハ貿易及ヒ交引舖等ノ

文書等ヲ贋造スル事

第四百十五條

○偽リノ調印

○證書、文體、調印等ノ變造

○人ノ姓名ヲ詭リ換ル事

○簿冊、證書等ノ類ヲ記了シ又ハ緘印ヲ為タル後ニ於テ竊ニ其書類ヘ為シタル附記

ル附記

此等ノ所行ヲナシテ其職務ヲ冒瀆セシ官吏ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四百十六條 官吏等ノ其職掌ニ管シタル書類ヲ記スル時ニ於テ契約ヲ結フ可キ雙方ノ

者ノ陳述セシ以外ノ契約ヲ記載シ又ハ贋偽ノ事物ヲ真正ナリト證シ或ハ陳述セサル事ヲ以テ陳述シタリト為ス等ノ事ニ因リ其書上ノ文ヲ贋造シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四百十七條

○文體及ヒ調印等ヲ贋造シ

○契約、規則、負債ノ證書及ヒ負債完済ノ證書等ヲ贋造シ或ハ其書類ヲ記了セシ後ニ於テ贋造シタル文ヲ附記シ

○證書ノ章句又ハ證書ニ陳述スル所及  
ヒ其證書ヲ以テ確定スヘキ條件等ヲ  
増加シ又ハ變造シテ

公然ノ確定ノ文書又ハ貿易及ヒ交引舖ノ文  
書等ヲ贋造セシ官吏外ノ者ハ有期ノ徒刑ニ  
處セラル可シ

第四百十八條 此一節中ニ開載セシ場合ニ於  
テ其如何ナルヲ問ハス贋造シタル書類ヲ用  
ヒタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四百十九條 千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ 路券及ヒ

兵士ノ道途ヲ限定スル路券又ハ獵ノ免狀等  
ヲ贋造セシ者ノ刑ハ前文ニ記スル所ト異ナ  
ルヲ以テ之ヲ此後文ニ記ス

○第四節 私書ヲ贋造スル事

第一百五十條 第四百十七條ニ記シタル方畧ヲ  
以テ私書ヲ贋造シタル者ハ徒刑場内ニ於テ  
驅役スル刑ニ處セラル可シ

第一百五十一條 此贋造シタル書類ヲ用ヒタル  
者ハ同刑ニ處セラル可シ

第一百五十二條 後文ニ記シタル證券ノ贋造ヲ



為タル者ハ此一節ニ開載シタル刑ニ處ス可  
カラス

○第五節 路券、獵ノ免狀、兵卒ノ道  
途ヲ限定スル路券及ヒ其他ノ  
證書類等ヲ贋造スル事

第百五十三條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ 路券及ヒ

獵ノ免狀等ヲ贋造シ又ハ真正ナル路券及ヒ  
獵ノ免狀等ヲ變造セシ者及ヒ其贋造、變造等  
ヲ為シタル路券及ヒ獵ノ免狀等ヲ用ヒタル  
者等ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサ

ル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百五十四條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ 路券及ヒ

獵ノ免狀等ニ偽名ヲ記載セシ者又ハ偽名ヲ  
用ヒ路券ヲ給付スルノ證人トナリシ者等ハ  
三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間  
禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

他人ノ姓名ヲ以テ給付シタル路券及ヒ獵ノ  
免狀等ヲ用ヒシ者モ亦同刑ニ處セラル可シ  
旅舎ノ主人ノ旅客ノ名簿ヘ故ラニ旅客ノ偽  
名ヲ記載セシ者又ハ旅客ト交通シテ其姓名

ヲ記載セサル者等ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百五十五條

千八百六十三年第五上等官吏

ニ於テ其知ラサル者ニ已レノ知ル所ノ者二人ヲシテ其姓名、身位等ヲ證セシムル事ナク路券ヲ附與シ及ヒ附與セシメタル者ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

官吏等ニ於テ偽名タル事ヲ知り其偽名ノ儘

ヲ以テ路券ヲ附與シ及ヒ附與セシメタル者、一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

且此犯人ハ其刑ニ處セラレシ日ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

第百五十六條

千八百六十三年第五兵卒ノ道

途ヲ限定スル路券ヲ贋造シ及ヒ真正ナル其路券ヲ變造シ又ハ贋造及ヒ變造等ヲ為シタ

ル其路券ヲ用ヒタル者

第一 若シ其贋造及ヒ變造ノ路券ヲ以テ官署ヲ欺クノ目的ノミナル時ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二 若シ其贋造及ヒ變造ノ路券ヲ所有スル者ニ於テ政府ノ會計局ヨリ當然ニ得ルノ理ナキ旅費及ヒ當然ニ得可キ額ニ過タル旅費ノ百フランク以下ヲ求取シタル時ハ其犯人ニ於テ一

年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第三 若シ其路券ニツキ非理ニ得タル所ノ額ノ百フランク以上ナル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二第三ニ記スル處ノ犯人ハ其刑ニ處セラレシ日ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受

ク可シ

又此犯人ハ裁判所ノ命ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第百五十七條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ  
前條ニ記

スル所ノ刑ハ其開具スル所ノ區別ニ循ヒ偽名ヲ詭稱シテ兵卒ノ道途ヲ限定スル路券ヲ官吏ヨリ交收セシ者及ヒ他人ノ姓名ヲ以テ給付シタル兵卒ノ道途ヲ限定スル路券ヲ用ヒシ者等へ適當シテ用フ可シ

第百五十八條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ  
若シ官吏

ニ於テ偽名ヲ詭稱セシヲ知リ故ラニ兵卒ノ道途ヲ限定スル路券ヲ給付シタル時ハ左ノ刑ヲ受ク可シ

○第百五十六條ノ第一ニ記シタル場合

ニ於テハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○第百五十六條ノ第二ニ記シタル場合

ニ於テハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ

多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル  
可シ

○第百五十六條ノ第三ニ記シタル場合  
ニ於テハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑  
ニ處セラル可シ

○且第百五十六條ノ第一第二ノ場合ニ  
於テハ其刑ニ處セラレシ日ヨリシテ  
五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサ  
ル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ  
行フノ禁ヲ受ク可シ

第百五十九條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ自己ニ於

テ公務等ヲ免レ又ハ他人ヲシテ公務ヲ免レ  
シム可キカ為メ内科外科ノ醫官及ヒ其他軍  
務醫士等ノ偽名ヲ用ヒ疾病ノ證券ヲ造ル者  
ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時  
間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ人ヲ曲庇シ

テ其人ノ公務ヲ免レシム可キカ為メ詐テ疾  
病ノ證券ヲ造リタル内科外科ノ醫官及ヒ其  
他軍務醫士等ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ

多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
若シ贈遺及ヒ約束等ニ因テ此罪ヲ犯セシ者  
ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時  
間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
此二箇ノ場合ニ於テ其犯人ハ其刑ヲ受シ日  
ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラ  
サル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ行フ  
ノ禁ヲ受ク可シ  
贈遺及ヒ約束等ニ因テ公務ヲ免レント為ス  
罪ヲ犯セシ者ハ贋造ノ證券ヲ附與シタル内

科外科ノ醫官及ヒ其他軍務醫士等ト同刑ニ  
處セラル可シ

第百六十一條

千八百六十三年第五人ニ對シ  
月十三日如左換フ

政府又ハ士民ヲシテ好意、愛憐ノ情等ヲ起サ  
シメ及ヒ其人ノ為メ職務、信據及ヒ救助等ヲ  
得セシム可キカ為メ官吏ノ偽名ヲ用ヒ保身  
ノ證券、窮乏ノ證券及ヒ其他ノ證券等ヲ造リ  
タル者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラ  
サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第一 元來真正ナル證券ト雖モ其證券

上ニ記載セシ人ニ非サル者ニ用フ可  
キカ為メ之ヲ變造シタル者

第二 其贋造及ヒ變造等ノ證券ヲ用ヒ  
タル者

此等ノ者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カ  
ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
若シ平民ノ名ヲ詭リ其證券ヲ造リシ時ハ其  
贋造ヲ為タル者及ヒ之ヲ用ヒタル者等ニ於  
テ皆十五日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサ  
ル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十二條 此一節ニ開載セシ以外ノ證券  
ヲ贋造シテ他人又ハ政府ノ會計局等ニ對シ  
害ヲ生スル事アル時ハ其犯人ニ於テ其罪ノ  
次第ニ因リ此款ノ第三節及ヒ第四節ノ規則  
ニ准ヒ刑ヲ受ク可シ

普通ノ規則

第百六十三條 贋造及ヒ變造等ノ貨幣、紙券、國  
璽、記號、鑿記、商牌、文書等ヲ用ヒシ者ノ若シ其  
贋造及ヒ變造タル事ヲ知ルニ非サル時ハ此  
章ニ記シタル刑ヲ受ク可カラス

第六十四條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ 前條ニ記

シタル所ノ犯人ハ百フランクヨリ少カラス  
三千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ  
受ク可シ然レ此贋造及ヒ變造等ニ於テ其輕  
重罪ノ首謀附從及ヒ之ヲ用タル者等ノ所得  
トナシ及ヒ所得ト為サント為タル其不正ノ  
利益ノ額ノ四分ノ一ニ至ル迄ノ罰金ヲ言渡  
スヲ得可シ

第六十五條

廢ス

○第二款

瀆職ノ罪及ヒ官吏等ノ其

職務ヲ行フニ就テ輕罪及ヒ重罪

第六十六條

官吏等ノ其職務ヲ行フニ就キ

犯セシ所ノ重罪ヲ指名ケテ瀆職ノ罪ト云

第六十七條

法律ニ於テ更ニ重キ刑ヲ定メ

サル瀆職ノ罪ハ民權剝奪ノ刑ニ處ス可シ

第六十八條

輕罪ノニニ於テハ官吏等ヲ瀆

職ノ刑ニ處ス可ラス

○第一節 公然ノ金銀及ヒ品物等

ヲ管守スル官吏等ノ其管守物

ヲ私有トナス事



第六十九條 收税官及ヒ公然ノ金銀ヲ管守  
スル者及ヒ算計ヲ為ス者等ノ公私ノ金銀及  
ヒ其金銀ノ證券又ハ其他職務ニシキ管守ス  
スル諸般ノ證券類及ヒ動産金銀衣服家什等  
搬運ス可キ物  
ヲ等ヲ贓物ト為タル者ノ其贓物ニ於テ若シ  
三千フラン以上ノ額ニ當ル時ハ有期ノ徒  
刑ニ處セラル可シ

第七十條 其既ニ交收シ又ハ管守シタル金  
額及ヒ證券等ニ管スル時其交收シ又ハ管守  
シタル額ノ三十分之一ニ均シク及ヒ過タル價

額ヲ贓物トナシ又開手銀ヲ受ク可キ交引舗  
ニ屬シタル交收セシ額及ヒ管守スル額等ニ  
管スル時其開手銀ニ均シク及ヒ過タル價額  
ヲ贓物トナシ又開手銀ナク年賦月賦等ニ於  
テ交收セシ額ニ管スル時一月間ニ交收シタ  
ル額ノ三十分之一ニ均シク及ヒ過タル價額ヲ贓  
物ト為ス等ノ時ニ於テハ其贓物ト為タル金  
額證券等ノ額ノ如何ナルヲ問ハス亦其犯人  
ヲ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

第七十一條 贓物ノ額ノ三千フラン以下

ニシテ且前條ニ記シタル額ニ至ラサル時ハ其犯人ニ於テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ其上日後公務ヲ行フ可ラサルノ言渡ヲ受ク可シ

第百七十二條 前三條ニ記シタル場合ニ於テハ其犯人ニ於テ必ス償還ノ額ノ四分一ヨリ多カラス十二分一ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百七十三條 裁判役、支配人、長官及ヒ其他公務ニ管スル官吏等、其職掌ニ於テ管守ヲ為ス

證書類及ヒ其職掌ニツキ交付ヲ得タル證書類等ヲ故ラニ遺失シ或ハ藏匿シ又ハ贓物ト為タル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ  
政府ヨリ委任ヲ受ケシ者及ヒ下等ノ官吏又ハ公然ノ金銀及ヒ證書類等ヲ管守スル官署ノ委任ヲ受ケシ者及ヒ下等官吏等ノ若シ同罪ヲ犯シタル時ハ同刑ニ處セラル可シ

○第二節 官吏ノ收斂

第百七十四條 千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ 長官及ヒ官吏又ハ其所屬ノ小吏及ヒ租税、金額、政府ノ

歳入、ゴム、ミーンノ歳入等ノ事ヲ掌ル官吏又ハ其所屬ノ小吏等ノ租税、歳入及ヒ謝金等トシテ收取ス可カラサル事ヲ知其額及ヒ當然收取ス可キ額等ニ過キタル額ヲ收納ス可キ事ヲ命シ又ハ強取シ或ハ交收シテ收斂ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ強取シタル額及ヒ收納ヲ命シタル額等ノ全數三百フランク以上ナル時ハ其長官及ヒ官吏等ヲ徒刑場内ニ於テ驅役スルノ刑ニ處ス可シ

同上ノ場合ニ於テ其所屬ノ小吏ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ此額ノ全數三百フランク以下ナル時ハ其長官及ヒ官吏等ヲ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ其所屬ノ小吏ヲ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處ス可シ此罪犯ヲ行ハント謀リシ者ハ既ニ其罪ヲ犯セシ者ト同刑ニ處セラル可シ

禁錮ノ刑ニ處セラレシ犯人ハ常ニ其刑ヲ受  
シ日ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多  
カラサル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ  
行フノ禁ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命ヲ以テ五年  
ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府  
ノ監察ヲ受ク可シ

此條中ニ記載シタル場合ニ於テ其犯人ハ常  
ニ償還ノ額ノ四分一ヨリ多カラス十二分ノ  
一ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
此條中ノ規則ハ法律ニ循ヒ委任ヲ受ケ收納

ヲ為ス時ニ於テ此罪ヲ犯シタル書記及裁判  
所ノ命ヲ傳フル官吏等ニ適當シテ用フ可シ

○第三節 官吏等ノ其職掌ニ於テ  
行フ可ラサル事務及ヒ商業等  
ニ管スルノ輕罪

第一百七十五條 長官及ヒ官吏又ハ政府ヨリ委  
任ヲ受ケシ者等ノ公然ノ所行及ヒ陰私ノ所  
行又ハ他人ノ紹介ニテ其所行ヲ為ス等ノ時  
其管領及ヒ檢査等ノ任ヲ受ケタル職務裁判  
暗算等ニツキ私利ヲ得タル者ハ六月ヨリ少

カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
處セラレ且償還ノ額ノ四分一ヨリ多カラス  
十二分ノ一ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受  
ク可シ

且日後何レノ公務ニ於テモ行フ可ラサル言  
渡ヲ受ク可シ

算還ヲ命シ及算還ヲ為ス可キ任ヲ受ケタル  
職務ニ於テ私利ヲ得タル官吏及其他政府ヨ  
リ委任ヲ受ケシ者等ハ同刑ニ處セラル可シ

第百七十六條 兵隊ノ指揮官又ハ州郡府縣城

塞等ノ管轄者及ヒプレヘイ「スウプレヘイ」等  
ノ其職務ヲ行フ可キ權ヲ有スル地ニ於テ公  
然ノ所行及ヒ陰私ノ所行又ハ他人ノ紹介等  
ニテ自己ノ所有ノ地ニ産セサル穀物及ヒ不  
良ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸般ノ粉ト為ス可キ  
物又ハ葡萄酒及ヒ其他ノ飲料等ヲ賣買セシ  
者ハ五百「フラン」ヨリ少カラス一萬「フラン」  
ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且其賣  
買ニ屬シタル品物ハ政府ヘ沒收セラル可シ

○第四節 官吏等ノ贈遺ニ因テ犯

シタル罪

第一百七十七條

千八百六十三年第五 政務及ヒ  
月十三日如左換フ

裁判等ノ事ニ管スル長官又ハ官署ノ官吏及  
ヒ小吏等ニ於テ縱令ヒ公正ノ職務ニ管シタ  
ル所為ト雖モ報金ヲ受ク可ラサル所行ニ於  
テ贈遺ヲ受ケ及ヒ贈遺ノ契約ヲ結ヒシ者ハ  
民權剥奪ノ刑ヲ受ケ其契約ノ額及ヒ其贈遺  
ノ額等ニ二倍ノ罰金ノ言渡ヲ受ク可レ但シ  
其罰金ハ何ノ時ト雖モ二百フランヨリ以  
下ナル事ヲカル可シ

契約ヲ結ヒ及ヒ贈遺ヲ受ケ當然ノ職務ヲ行  
フ事ヲ停止シタル長官又ハ官署ノ官吏及ヒ  
小吏等ハ同刑ニ處セラル可シ

裁判所又ハ原告人及ヒ被告人等ノ撰ミニ因  
リ訴訟間ニ於テ取扱ヲ爲ス者又ハ評價人等  
ノ契約ヲ結ヒ及ヒ贈遺ヲ受ケ頗黨ノ審斷論  
說等ヲ為タル時ハ同刑ニ處セラル可シ

第一百七十八條 官吏等ノ贈遺ニ因リ犯シタル  
罪ニ於テ若シ民權剥奪ノ刑ヨリ更ニ重刑ニ  
處ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ民權剥奪ノ刑ヨ

リ更ニ重刑ニ處セラル可シ

第百七十九條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ 第百七十

七條ニ記シタル所ノ官吏ヲ脅迫シ及ヒ脅迫  
セント為シ又ハ契約贈遺等ヲ以テ其良心ヲ  
誘惑シ煩黨ノ論說不正ノ口上書及ヒ證書評  
價等ヲ得ント為シ又ハ位階職務裁判暗算及  
ヒ其他ノ利益等ヲ得ント為ス者又ハ其長官  
及ヒ官吏又ハ小吏等ヲシテ其他ノ曲庇ヲ為  
サシメントシ又ハ官吏ヲシテ當然ノ職務ヲ  
行フ事ヲ停止セシメント為ス者等ハ贈遺ヲ

受シ者ト同刑ニ處ス可シ

若シ脅迫及ヒ贈遺等ヲ為ス可キヲ企ツル  
ト雖其其事ノ成就セサル時ハ其企ヲ為タル  
者ニ於テ三月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラ  
サル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランク  
ヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル  
罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百八十條 贈遺ノ品物及ヒ金額等ハ其贈遺  
ヲ為タル者ニ決テ還與ス可カラス之ヲ其犯  
罪ノ地ノ貧院ヘ沒收ス可シ

第百八十一條 若シ重罪ヲ審判スル裁判役及  
ヒ陪審等ノ原告被告中其一方ノ贈遺ヲ受ケ  
テ其利ヲ構成シ及ヒ一方ノ害ヲ構成セシ者  
ハ第百七十七條ニ記載セシ罰金ノ外徒刑場  
内ニ於テ驅役スル刑ニ處セラル可シ

第百八十二條 贈遺ノ事ニ因リ徒刑場内ニ於  
テ驅役スル刑以上ノ刑ヲ原告被告中ノ一方  
ヘ言渡シタル時ハ贈遺ヲ受ケタル裁判役及  
ヒ陪審等ヲ其刑ニ處スヘシ

第百八十三條 裁判役及ヒ公務ニ管スル者等

ニ於テ一方ヲ曲庇シ一方ヲ疾惡シテ裁判ヲ  
決定シタル者ハ其職務ヲ冒瀆シタルノ罪ア  
リト為シ民權剝奪ノ刑ニ處セララル可シ

○第五節 權ヲ擅ニスル事

○第一種 平民ヘ對シ權ヲ擅ニ  
スル事

第百八十四條 政務又ハ裁判等ノ事ヲ掌ル長  
官及ヒ其他裁判取締ニ管スル官吏又ハ兵ノ  
指揮官及ヒ其代人等ノ其職務ニ因リ法律ニ  
定メタル場合外ニ於テ且法律ニテ定メタル



規式ヲ守ル<sub>一</sub>ナク士民ノ意ニ逆ヒ強テ其屋  
内ニ入<sub>レ</sub>者ハ六日ヨリ少カラス一年ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フ  
ランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カ  
ラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此條中ニ  
記載スル所ト第百十四條ノ二項ニ記スル所  
ト相抵觸スル<sub>一</sub>ナカル可シ

脅迫暴行等ヲ以テ士民ノ家ニ入<sub>レ</sub>者ハ六日  
ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラ

ス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡  
ヲ受ク可シ

第百八十五條 裁判役及ヒ政務ニ管スル者等  
ニ於テ或ハ辭弊ヲ唱ヘ或ハ法律上ノ定則ナ  
ク及ヒ法律上ノ疑似等ヲ以テ口實ト為シ裁  
判ヲ請フ者アリト雖<sub>モ</sub>其裁判ヲ為スヲ肯セ  
ス且其上等官吏ノ譴責又ハ其命令等ヲ受ケ  
シ後ニ於テ猶固執シテ其裁判ヲ為サル者ハ  
其訴訟ヲ受ケ二百フランクヨリ少カラス五  
百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受

ケ且五年ヨリ少カラス二十年ヨリ多<sup>カ</sup>ラサル  
時間公務ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

第百八十六條 長官及ヒ官吏又ハ政務ニ管ス  
ル者又ハ政府ノ小吏及ヒ取締ノ小吏又ハ裁  
判執行ノ命ヲ受ケシ者又ハ兵ノ督帥及ヒ其  
所屬ノ士官等ニ於テ其職務ヲ行フニ當リ正  
シキ事由ナク人ノ身體ヘ對シテ暴行ヲ加ヘ  
又ハ加ヘシメタル者ハ其暴行ノ種類ト輕重  
トニ因リ第百九十八條ニ記スル所ノ規則ニ  
循ヒ其刑ヲ峻重ニ為シテ罰ス可シ

第百八十七條 政府ノ長官及ヒ官吏又ハ驛遞

ノ長官及ヒ官吏等ニ於テ遞送ノ文書ヲ故ニ  
遺失シ又ハ發封シ及ヒ發封ノ事ヲ助ケシ者  
ハ十六<sup>「</sup>フランクヨリ少カラス五百<sup>「</sup>フランク  
ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且三月ヨ  
リ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ  
刑ニ處セラル可シ但シ其犯人ハ五年ヨリ少  
カラス十年ヨリ多カラサル時間諸般ノ職務  
ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

○第二種 公然ノ事ニ對シテ權

ヲ擅ニスル事

第百八十八條 政府ノ長官及ヒ官吏又ハ小吏等ニ於テ何ノ位階ヲ論ヒス國法ヲ施行スル事又ハ當然ノ租税ヲ收納スル事又ハ裁判所ノ命令及ヒ其他當然ノ權威アル者ヨリ出シタル命令等ヲ行フ事等ニ背キテ兵ヲ動シ又ハ用フル等ノ事ヲ求メ及ヒ命シタル者又ハ兵ヲ動シ及ヒ用フル等ノ事ヲ求メシメ及ヒ命セシメタル者等ハ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セララル可シ

第百八十九條 前條ニ記セシ如ク兵ヲ動シ又ハ用フル等ノ事ヲ求メ又ハ命シタルニ因リ現ニ其兇行ヲ行ヒシ者ハ至重ノ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處セララル可シ

第百九十條 上等官吏ノ職掌ニ管スル事ニツキ其所屬ノ官吏及ヒ小吏等へ前條ニ記シタル罪犯ヲ行フ可キノ命ヲ為シ其官吏及ヒ小吏等ノ此命ニ因テ其罪ヲ犯セシ時ハ第百八十八條及ヒ第百八十九條等ニ記シタル刑ヲ以テ其官吏及ヒ小吏等ヲ處ス可カラス此命

ヲ下シタル其上等官吏ヲ其刑ニ處ス可シ  
第百九十一條 前條ニ記シタル事ヲ命シ又ハ  
求メタルニ因リ第百八十八條及ヒ第百八十  
九條等ニ記シタル刑ヨリ更ニ重刑ヲ以テ罰  
ス可キ重罪ヲ犯シタル事アル時ハ其命ヲ下  
シ又ハ其事ヲ求メタル長官及ヒ官吏又ハ小  
吏等ヲ其重刑ニ處ス可シ

○第六節 民生ノ證書ニ管シタル  
輕罪

第百九十二條 民生ノ事ニ管スル官吏ノ零紙

ハカミ

ニ其證券ヲ記シタル者ハ一月ヨリ少カラス  
三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
レ且十六フランクヨリ少カラス二百フラン  
クヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
第百九十三條 婚姻ヲ確定ス可キ為メ法律ニ  
於テ父母又ハ其他ノ者ノ許諾ヲ必用ト為ス  
可キ事ノ定リタル事ニ於テ民生ノ事ニ管ス  
ル官吏等ノ父母又ハ其他ノ者ノ許諾シタル  
證ヲ取ラサル時ハ十六フランクヨリ少カラ  
ス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡

ヲ受ケ且六月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百九十四條 民生ノ事ニ管スル官吏等ニ於テ民法第二百二十八條ニ定メタル時間ニ至ラサル以前ニ婦ノ再婚ノ證書ヲ交收シタル時ハ十六フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百九十五條 又其官吏等ニ於テ其證券ヲ廢棄ス可キノ求メヲ受シ事ナキ時又ハ廢棄ス可キ事ノ分明ナラサル時等ト雖凡前三條ニ

記シタル刑ヲ以テ罰セラル可シ但シ此規則ト官吏ノ交通ノ時更ニ重刑ニ處ス可キ規則及ヒ民法第一篇第五卷ニ記スル所ノ刑ト相抵觸スル事ナカル可シ

○第七節 官吏等ニ於テ法ニ背キ未タ職ニ就サルノ前ニ其職事ヲ行ヒ及ヒ既ニ職ヲ罷ムルノ後猶其職事ヲ行フ事

第百九十六條 官吏等ノ誓ヲ為サス其職事ヲ行ヒ始ムル者ハ其訴訟ヲ受ケ十六フランク

ヨリ少カラス百五十フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百九十七條 法ニ循ヒ退任ヲ得タル者又ハ職務ヲ行フノ停止ヲ受ケ及ヒ職務ヲ行フノ禁ヲ得シ者等ニ於テ其公告ヲ受ケシ後ニ猶其職事ヲ行フ時及ヒ衆人ノ撰擗ニ因テ職務ノ任ヲ受ケシ者又ハ定期ノ時間職務ノ任ヲ受ケシ者等ノ期滿ノ後ニ於テ猶其職事ヲ行フ時等ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランク

ヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ其上其犯人ハ其刑ヲ受シ日ヨリシテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間諸般ノ公務ヲ行フノ禁ヲ得可シ但シ此規則ト第九十三條ニ定メタル軍務士官又ハ指揮官等ヲ更ニ重刑ニ處ス可キ規則ト相抵觸スル事ナカル可シ

○格別ノ規則

第百九十八條 法律ニ於テ長官及ヒ官吏等ノ行フタル重罪及ヒ輕罪等ヲ罰ス可キ刑ヲ別

段ニ定ノタル場合ノ外其官吏等ノ検査及ヒ  
制御等ヲ為ス可キ輕重ノ罪犯ニ加リシ時ハ  
左ノ罰ヲ受ク可シ  
同犯ノ者ニ於テ輕罪ヲ犯シタル時ハ其長官  
及官吏等ヲ輕罪中ノ至重ナル刑ニ處ス可シ  
重罪ヲ犯シタル同犯ノ者ノ追放ノ刑又ハ民  
權剥奪ノ刑等ニ處セラル可キ時ハ其長官及  
官吏等ヲ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處  
ス可シ

若シ同犯ノ者ノ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑

又ハ囚獄ノ刑等ニ處セラル可キ時ハ其長官  
及官吏等ヲ有期ノ徒刑ニ處ス可シ  
若シ同犯ノ者ノ流刑又ハ有期ノ徒刑等ニ處  
セラル可キ時ハ其長官及官吏等ヲ無期ノ  
徒刑ニ處ス可シ  
若シ前文ニ記シタル場合以外ナル時ハ其官  
吏ヲ同犯ノ者ト同刑ニ處ス可シ

大寫字生辻士筆筆受

法律書刊注

大學南校

佛蘭西  
法律書  
刑法二終